

## 第1回 大田区コミュニティバス導入検討会

(平成19年12月14日)

### 概要

#### ○副区長の挨拶(要旨)

コミュニティバスの導入につきましては長い間の懸案として検討いたしました。平成16年に、収支等の検討をいたしましたが、事業化するといった状況にありませんでした。

現在、区の基本構想長期計画について審議会でご審議いただいておりますが、基本構想の方向性が定まるまでの2か年の計画の一つに、コミュニティバスの導入というものを挙げさせていただいております。

今回、検討会を開催させていただき、導入すべき地域、導入のあり方、運営のあり方を検討のうえご提案いただき、その結果を基に来年度の運行に向けての検討を進めてまいりたいと思っております。

#### 委員の発言や質問の概要

##### ○検討の目的

- ・検討会では導入候補地域の選定をして、その目的を明らかにして、優先順位まで決めるといこととです。
- ・目的の一つに交通不便地域の解消という事があり、多少東京都から補助を受けられる可能性があります。
- ・交通不便地域と福祉と観光その他全部のものを検討してバスを走らせるという事になると、全部というのはとても無理だと思います。
- ・コミュニティバスというのは必ずしも、福祉とは相反するというような優先順位を作るという事ではないと思います。比べる物ではなくて補完し合うような施策として検討していければいいのではと思います。
- ・交通不便地域と高齢者・障がい者など、福祉関係の地域と事業性が伴っていくかどうかの関連がうまくマッチしないと走れるルートが決まりにくいと思います。
- ・黒字の路線を作るのは、全国的に見ても恐らくコミュニティバスとしては数える程しかないかなと思います。
- ・補助制度は、東京都の補助、国の補助制度もあります。要件は当然ありますので活用していければいいのではと思います。
- ・誰も乗らないというのが一番の赤字になってしまう、利用者が増えるような路線にするのが必要だと思います。

## ○区民意向の把握

- ・重要なのは区民意向の把握という事で、調査結果をベースに決めるという事ではないのですが、地域選定の重要な材料になるという事です。
- ・回収率が悪いと「この地区は、あまり関心がないのではないか」、という事にもなりますね。
- ・アンケートのイメージは、大田区内というイメージが来るかと思うのですが、区外の駅や施設を使う人もいます。調査の設問は、裾野を広げておいた方がいいのではないかと思います。
- ・現状は、当然把握します。それと導入され路線が出来た後に新たな需要が発生する。そういう所のアンケートは取りにくいのか、その辺を質問できないものかと思えます。

## ○導入方法

- ・ある程度決まった段階になりバス停が決まったら地域の人々の協力関係というのがあります。ゴミの整理やその他の事がありますから地域の人達の話し合いをぜひ導いてください。
- ・物理的な実現性と住民の方の協力が大事だという事ですね。
- ・来年度については地域に根ざした形で具体的な検討をする。一年間の中でかなり具体的に進めていかないといけないものです。
- ・具体化していく次の作業は、地域の事もあるのでせいぜい1ルートずつ具体化していくと。今年選定した全部のルートが実現まで辿り着けない可能性もある。
- ・今年はフラットな感じで、複数設定してそれに伴う行政側の問題、あるいは道路の問題といった課題もあわせて、コミュニティバスの課題を検討するというまとめ方にしたらどうか。
- ・複数の必要性のあるルートが出来る。課題について挙げて具体化するときに、エリアの方と相談して実現をしていったらどうか。
- ・複数選定することはありえて、来年度その地域全てが実現するわけではないということですね。
- ・地域主体でやってみようという所は何箇所もあります。地域全体とすればやりたいのだけれども、最終的にはできなかったというようなケースもあります。地域の皆様方がこういった中で出てくる話を具体化したときに、協力などが得られれば良いと思います。
- ・最近では区民が主体となって支え、元々何も無いところから自分達のサービスを考えて実際実行に移すというところも出てきます。それがなければ難しいと思うのです。その辺は覚悟してやった方がいい気がします。コミュニティが支えるバスがコミュニティバスで、私たちが支えない限りは長続きしないという事です。

以上